

特集 2006年 確定申告の手引き

大企業には大減税、穴埋めには庶民増税

2007年税制改革の動き

税理士 林明

企業減税と庶民増税

昨年12月1日に政府税制調査会は安倍内閣に答申を出しました。その答申は減価償却制度を見直すこと、法人税



の実効税率の引下げを検討課題とすること、上場株式等の配当や譲渡益の軽減税率については期限切れとなる07年度末をもって廃止することなどを中身としたものでした。次いで12月14日には自

巨額の設備を有する大企業に恩恵

この大綱では、政府税制調査会と同じく減価償却制度の見直しをする。と、上場株式等の配当や譲渡益の軽減税率を1年

大資産家への優遇税制

同じく国税庁の04年分の申告納税者の統計によれば、株式等の譲渡所得の64.1%は所得500

庶民増税

「答申」と「大綱」には庶民向けの新たな増税はもろこまれている。しかし、07年度にはすでに決定済みの増税がやってきます。定率減税の廃止と税源移譲による住民税の税率10%一本化(従来は5%、10%、13%の3段階)です。所得税は税率が6段階で最低税率は5%になり、一般サラリーマンの場合、1月から源泉徴収される所得税は減少しますが、6月にはその減少額を上回る規模で増額された住民税の通知が届くこととなります。

間延長することを決めました。また、来年以降、消費税を含む税体系の抜本的改革を実現すべく取り組んでいくとし、消費税の増税の方向を明記しました。

少し減税となります。国税庁の04年分の法人企業の統計資料から見ると、減税規模は7000億円程度と試算されていますが、その60%は資本金10億円以上の企業が占める計算になります。

また、配当所得についてもみるならば、年間数十万円程度の配当所得は従来からの配当控除を使えばほぼ税金の対象となりませんので、この人たちにとっては税率が軽減されているといっても関係のないことで、結局軽減税率の恩恵を受けているのは毎年何千万円もの配当を得ている大資産家とい

税金はともすれば「どこからどれだけの税率で課税するか」が関心事とされますが、税金を「どう使うのか」を考えると、税金が政府による不正流用や癒着の温床となる無駄な大型ゼネコン公共事業、大企業への大盤振る舞いの減税にはなく、医療や社会保障に使うよう意思表示することが大切です。

今年も昨年1年間の所得と納付税額を自主的に決めて申告する、確定申告の時期がやってきます。

昨年、大幅なマイナス改定となった4月の診療報酬改定、10月からの高齢者一部負担額の引き上げなどの相次ぐ医療改善で収入が減少し、歯科医院経営がますます難しくなると実感されている会員も多いのではないのでしょうか。



患者の側に目を転じると、歯科医院の来院患者層の5割以上を占める国保加入世帯などは、定率減税の半減・廃止や高齢者への増税で所得税・住民税が10倍にもなり、国保料、介護保険料も引き上げられました(図)。「なんでもこんなに高くなった」「これ以上は払

いられない」として、昨年の6月以降、各市町村窓口で苦情が殺到しています。

高額な保険料のうちに、3割の一部負担金。歯科医院への来院を控えようとする要因がここにもあるといえます。

その一方で、安倍政権発足後、国・地方で税金の無駄使いの事件が数多く発覚しています。首相の肝いりで大企業減税一辺倒の税制「改革」を推し進めた本間正明・政府税制調査会会長が、豪華な公務員宿舎に私的

に入居していた事件。政府閣僚と自民・民主両党国会議員18人が、家賃無料の議員会館を「主たる事務所」にしたが年間1千万円以上を「事務所費」として経費扱いしていた問題など、私たちが納めた税金を私的かつ不

正に使い込んでいる実態が明るみになりました。テレビ報道によれば、大阪府の太田房江知事は、一度は破綻した箕面市の大規模ニュータウン開発事業を再度推進しようとして、トンネル道路建設工事に多額の税金

を投入しています。その結果、「箕面の滝」の水脈は枯渇してしまい、人工的に再生するため、トンネル内に流出した地下水を電気ポンプで滝までくみ上げるのにまた新たな税金をつぎ込むといった無駄をくりかえしている

税金はともすれば「どこからどれだけの税率で課税するか」が関心事とされますが、税金を「どう使うのか」を考えると、税金が政府による不正流用や癒着の温床となる無駄な大型ゼネコン公共事業、大企業への大盤振る舞いの減税にはなく、医療や社会保障に使うよう意思表示することが大切です。

今年4月の統一地方選挙、7月の参議院選挙など、私たちが意思表示する絶好の機会が数多くあります。国・地方政治のあり方について、納税者としての権利を積極的に行使しましょう。

「大綱」は国の財政が

納税者の権利を行使する機会に税金の使い道を決める選挙

経税部長 富本 昌之

わたしたちの勤労の結果、果生み出された所得から身銭を切って支払った税金の使い方が、まさに問われている状況にあります。今のこの時期にこそ、税金について考えてみる必要があると

わたしたちの勤労の結果、果生み出された所得から身銭を切って支払った税金の使い方が、まさに問われている状況にあります。今のこの時期にこそ、税金について考えてみる必要があると

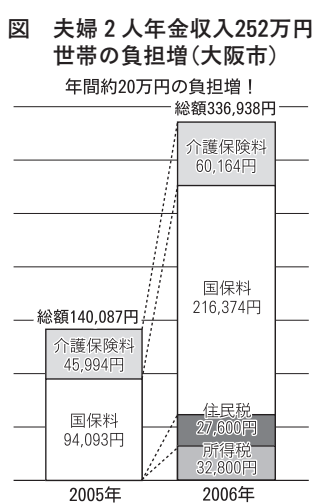
わたしたちの勤労の結果、果生み出された所得から身銭を切って支払った税金の使い方が、まさに問われている状況にあります。今のこの時期にこそ、税金について考えてみる必要があると

わたしたちの勤労の結果、果生み出された所得から身銭を切って支払った税金の使い方が、まさに問われている状況にあります。今のこの時期にこそ、税金について考えてみる必要があると

わたしたちの勤労の結果、果生み出された所得から身銭を切って支払った税金の使い方が、まさに問われている状況にあります。今のこの時期にこそ、税金について考えてみる必要があると

わたしたちの勤労の結果、果生み出された所得から身銭を切って支払った税金の使い方が、まさに問われている状況にあります。今のこの時期にこそ、税金について考えてみる必要があると

わたしたちの勤労の結果、果生み出された所得から身銭を切って支払った税金の使い方が、まさに問われている状況にあります。今のこの時期にこそ、税金について考えてみる必要があると

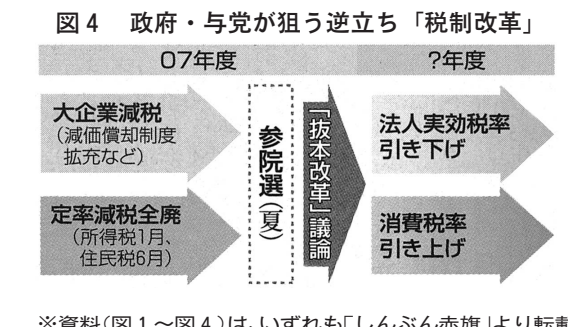
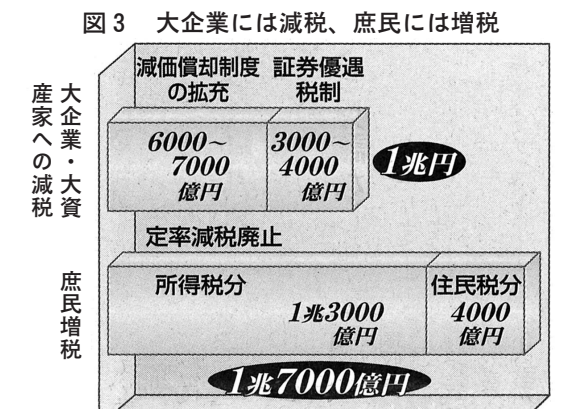
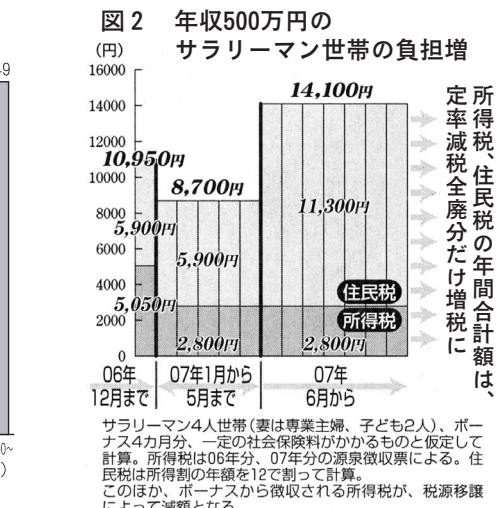
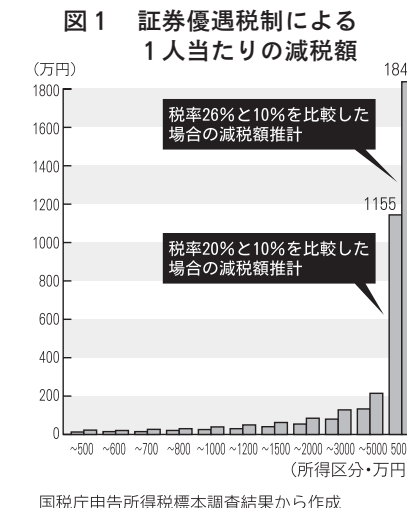


を投入しています。その結果、「箕面の滝」の水脈は枯渇してしまい、人工的に再生するため、トンネル内に流出した地下水を電気ポンプで滝までくみ上げるのにまた新たな税金をつぎ込むといった無駄をくりかえしている

税金はともすれば「どこからどれだけの税率で課税するか」が関心事とされますが、税金を「どう使うのか」を考えると、税金が政府による不正流用や癒着の温床となる無駄な大型ゼネコン公共事業、大企業への大盤振る舞いの減税にはなく、医療や社会保障に使うよう意思表示することが大切です。

わたしたちの勤労の結果、果生み出された所得から身銭を切って支払った税金の使い方が、まさに問われている状況にあります。今のこの時期にこそ、税金について考えてみる必要があると

わたしたちの勤労の結果、果生み出された所得から身銭を切って支払った税金の使い方が、まさに問われている状況にあります。今のこの時期にこそ、税金について考えてみる必要があると



※資料(図1~図4)は、いずれも「しんぶん赤旗」より転載